

## インベントリ調査法現地講習会報告

場所：森林総合研究所北海道支所構内

開催日：2011 年 8 月 31 日

### ● 概要

北海道地域の 2011 年度の調査を担当する調査受託者を対象に、森林総合研究所北海道支所構内の実験林 7 林班い小班において、調査法講習会を実施した。受講者は北海道西ブロック担当の株式会社セ・プランから 5 名が参加し、講師は森林総合研究所北海道支所の相澤、橋本、本所土壌資源研究室の酒井佳美が担当した。9 時 30 分に研究本館前に集合した後、講習会用に設定した実習プロットに移動した。林相は落葉広葉樹林で一部にギャップがあり、林床はクマイザサが覆っていた。最初に全員で試験地の中心杭付近に集まり、見取り図作成、写真撮影等の調査地概況調査について説明した。その後枯死木調査のラインインターセクト法における倒木の測定法と分解度判定法について説明し、南北方向のラインを使ってライン長の測定と倒木調査を実習した。ラインを林道が横切っていたため、林道部分の長さをライン長から除外した。実習プロットでは立枯木や根株が出現しなかったため、立枯木と根株の測定法は肥培モデル実験林のトドマツ林に移動し、間伐木の根株や、雪害による立枯木を使って説明した。昼食は研究本館に戻り、小会議室を使用した。午後は再び実習プロットに移動し、堆積有機物量調査と土壌炭素蓄積量調査の説明と実習を行った。はじめに N 地点に集まり、調査位置の選定、土壌断面の作成と記載、写真撮影の説明と実演を行った。続いて堆積有機物の区分と採取、0～5cm の土壌試料の採取を実演した。火山放出物を母材とする礫のない断面であったが、説明のためブロック採取の実演を行った。その後 2 班に分かれて E 地点と S 地点で実習を行った。講習会に初めて参加する受講者は全員採土円筒による定体積試料採取を実習するようにした。2 層目まで採取したところで終了予定時刻が近づいたため、3 層目は採取せずに埋め戻した。研究本館前に戻り、17 時 10 分に解散した。講師が作成した実習プロットの見取り図と一部の土壌断面スケッチを見本として後日セ・プランに送付した。地形が平坦で礫がほとんど出現しなかったため、局所地形や傾斜、礫率、ブロックサンプリングの説明には不適であるという欠点はあったが、アクセスが容易な支所構内に実習プロットを設定したことにより、準備に十分時間をかけられたことは、講習会をスムーズに進行させるうえで大きな利点であったと考えられる。

● 記録写真



実習プロットで調査概況調査の説明



倒木の分解度をサンプルで確認



ラインインターセクト法による枯死木測定



ライン沿いの根株、立枯木の測定



斜めになった根株の測定



表層の定体積試料採取の説明



定体積試料の採取